



かなのわ Kananowa ~つたえたいことだま~

子どもたちへの夏休みや夜の学習支援や、食事提供、自然体験活動などが評価され、令和3年度山口きらめき財団「きらめき賞」を受賞した「Kananowa」。その活動は、難病で亡くなった教師・荒木佳奈さんのメッセージが始まりでした。

子どもたちの未来のために 今できることを

1冊の闘病日記から

西大坪の住宅街の一角に、人々が集う家があります。ここでは、地域の子どもや大人が集まって、勉強をしたり、遊んだり、悩みを打ち明けたり：遠くに出かけて自然体験をすることもあります。

この家に住む前田亜樹さんは、6年前、1冊の闘病日記に出会いました。

「本に呼ばれている気がして手に取りました。そこには、35歳の若さで亡くなった荒木佳奈さんのお母さん山本郁子さんのこらえ切れない気持ち詰まっていました。気になっ



▲前田亜樹さん(左)。「動いてくれる妖精のようなママさんたちのおかげで活動ができます」

て山本さんへ手紙を書いたことから交流が始まりました」やがて「娘の想いをたくさ

んの人に伝えてもらえないだろうか」と前田さんは山本さんから、依頼を受けます。

「佳奈さんの言葉を本」つたえたいことだま」にまとめました。そして私も人生の時間を使って伝えていきたいと思い「Kananowa」を始めました。前田さんは自宅を開放し、佳奈さんの想いを、地域の中で実践していく「照子親」活動をしています。

これまでにしてきた活動は、夜の勉強会、お菓子作り、お弁当支援プロジェクト、自然体験など。「この活動は、協力してくださるたくさんの方々のおかげでできています。顔も見たことがない子どもたちのために寄付をしてくださる方、協力してくれるママさんたち。純粋な子どもたちへの想いが集まる場所なので、子どもたちに愛情が伝わるんだと思います。子どもたちはそんな大人の後ろ姿を見ているので、手伝いをしたり、下の子の面倒をみます。」



春になって行きたい場所



～にほんごコミュニティの生徒さん～

▶夜の勉強会は前田さんの自宅で行っていますが、夏休み勉強会は、学校を借りて、お母さんたちが教えています。お昼のお弁当も、お母さんたちが協力して用意します。



◀公民館を借りて、料理教室やお菓子作りもしています。

▶川遊び。自然体験をとっても大切にしています。Kananowaでは、自然の中から学んで好奇心に結びついたら良いと考えています。



社会に出たら人の役に立つことをしたいと思っています。子ども、優しい子がいいです。そんな子どもたちが社会に出ていくと、温かい街になると信じています。そう前田さんは話します。

活動に参加されている田上智絵さんにお話を伺いました。「この活動には役員がないので、やらされているわけではなく、やりたいことを子どもと一緒に楽しんでいきます。この地域には子どももいないので第二・第三のお母さんがたくさんいます。子どもたちの名前も分かります。私は温かいこの地域から出たくないと思っています」

つながることで広がる輪

前田さんの目標を伺いました。「コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、学校が場所を貸してくれて、保護者にご飯を作ってもらって、ボランティアの方が勉強を教えるといった温かい地域をつくることができました。みんなが同じ方向を向いて、少しずつできることをして、つながることが重要です。これからの地域創生にすごく大きな影響を与える、可能性の広がることだと思います」

子どもへの想いがつながり、街が温かくなる、そんな輪が広がっています。

Editor's note 編集後記

■園芸センターがこれまで積み上げてきた技術や、ツバキの素晴らしさが、少しでも皆さんの心に残ればうれしく思います。今後、その何かを受け継がれていき、下関がもっと良い街になると信じています。廣野

■取材挨拶で、書道教室の豊田先生と対面。そこで気づく。私が書道の教えを請うたかつての恩師だと♪ 恩師が、下関市の次世代ヒーローを育てていることを知り、感動しました。西村